



Nexis Commands レファレンスガイド

Connectors (コネクター)

コネクターを使って単語間の論理的な関係を構築することができます。コネクターを使用しない場合は、Nexisは自然言語検索 (Natural Language searching) として検索します。

AND

複数の単語/語句 (単語の集まり) が同一のドキュメント中に現れるかどうかを検索します。単語/語句はお互いが近くにあって離れていてもどちらでも検索されます。例: *bank AND deregulate*

AND NOT

AND NOTの後に続く内容を含まない文書を検索します。関連するドキュメントを省いてしまうので使用には注意が必要です。検索の後半に使用しましょう。

例: *(michael W/2 jordan) AND NOT basketball OR bulls OR sports*

OR

OR検索で区切られた単語は検索結果として得られたドキュメントのどこかしらに少なくとも1つは現れますが、必ずしも同一のドキュメントに全ては現れません。同義語、反義語、似通った言い回しなどに使用して、検索結果の幅を広げることができます。例: *outlook OR forecast OR trend*

PRE/N

ドキュメント内に現われる単語の語順でどちらが先にくるか指定しその前後の単語間で単語がいくつ入るか指定して2つの単語がどれだけ離れているかを条件に含めて検索できます。2単語間の距離は1から255まで指定できます。

例: *cable PRE/2 (television OR tv OR t.v.)*

特に人名を検索する際、PRE/2やW/2を名前と名字間に使用すると効果的です (欧米ではミドルネームが常用されているため)。

例: *bill pre/2 george*

W/N or NEAR/N or /N

検索単語間の距離を指定して検索することができます。語順は指定されません。

例: *market W/5 share (marketの前後5単語以内にshareがある文書を探します) Or donald W/2 trump*

W/P

2つの単語が同一の段落内に使用されているドキュメントを検索します。W/N検索を同時に使用できません。

例: *airline W/P merger*

W/S or NEAR/S or /S

2つの検索用語が一つの文中に使用されているドキュメントを探します。例: *predict! W/S "hurricane season"*

Wildcards (ワイルドカード)

QUESTION MARK ?

1つの単語内の文字を? (クエスチョンマーク) に変えることで、?箇所については文字を指定しないことで残りの文字から想定される単語全てを検索対象に含めてドキュメントを探することができます。?は1単語内に7つまで使用することができますが、頭文字以外の箇所の使用となります。

例: *bernst??n = bernstein, bernstien, bernstown, etc*

EXCLAMATION POINT ! or ASTERISK *

! (エクスクラメーションマーク) が * (アスタリスク) を使って単語の語尾に幅を持たせて検索することができます。頭文字を含めた最初の3文字以上を指定してから、このワイルドカードを使用することができます。

例: *insur! = insure, insured, insurance, insuring, insuree, insurer*

Precision Search Commands (プリジション検索コマンド)

プリジション検索コマンドを使うと、Nexisのサーチエンジンが検索用語を特定の方法で読み取るように働きかけるため、検索の正確性や効率性を高めることにつながります。このコマンドはLexisNexisのサービスでデフォルトで設定されている内容とは異なる方法による働きかけになります。

例えば、LexisNexisのサービスでは大小の文字の区別はなされませんが、特定のプリジション検索ツール (*allcaps, caps and nocaps*) を組み込むことで、サーチエンジンに大文字情報を読ませることができるようになります。

また、もし特定の語句にぴったりと当てはまる内容のドキュメントを探したい場合は、その語句をクオテーションマークで囲みます。そうしなければ、LexisNexisは表現に幅のある語句を自動的に検索します。つまり、Nexisは単語の語尾や、複数形、所有格、時制や形容詞などの要素を自動的に加味し、ワイルドカードやコネクターを指定しなくても、含めを持たせた検索をするようになっています。

前のバージョンではなかった機能として、冠詞つまり "the", "an", and "a" といった単語がクオテーションに含まれた場合に、これらの情報も検索対象に含めて検索がなされます。例えば、"Bank of America" の検索はバンク・オブ・アメリカ銀行の検索結果を表示します。

Commandsを使った検索式の組み立て

コマンド (search term) を使って検索式を組み立てることができます。よく使われるプリジション検索コマンドは以下の通りです。

ALLCAPS

検索している単語の全ての文字が大文字になっているドキュメントを探します — 頭字語を探す際に特に役に立ちます。

例: *allcaps(era) = Equal Rights AmendmentかEarned Run Averageについての略語を含んだドキュメントを探します*

CAPS

検索している単語の一文字が少なくとも大文字になっている記事を探します。名前や適切な名称を探す際に特に便利です。ニュースコンテンツのみに使用できます。

Example: *caps(era) = 洗剤のブランド名を含んだドキュメントを探します*

Constructing Your Search With Commands (cont'd)

NOCAPS

検索単語が全て小文字で表記されている記事を探します。頭字語や名前、固有名詞が省かれます。ニュースコンテンツのみ利用できます。

例: *nocaps(era) = era* という単語を含んだ記事

ATLEASTN or ATLN

検索単語のドキュメント内での登場回数の頻度を検索することができます。最低何(*)回登場するかを条件に含められます。

例: *atl10("competitive intelligence" OR ci)*

Segments (セグメント)

記述子(ディスクリプター)もしくはフィールドのように機能するセグメントは、ドキュメント内の検索可能な部分となります。よく使われているセグメントは下記の通りです。

コネクターを使った検索や日付の条件指定に、セグメントの条件を加えてみてください。

BODY	ドキュメントの本文/記事部分を検索の対象にする場合 <i>BODY(election)</i>
BYLINE	著者/記者の名前 <i>BYLINE(james W/2 brady)</i>
HEADLINE	ドキュメントのタイトル/見出し <i>HEADLINE(seagram)</i>
HLEAD	タイトルとリード(前文)箇所両方を併せて検索 <i>HLEAD("college playoff" AND nike)</i>
LEAD	リード(前文)箇所を検索 <i>LEAD(candy)</i>
DATE	ドキュメントの書かれた日付 <i>DATE(jan. 22 2002) or DATE>2017</i>
LENGTH	BODY部分の単語の合計数を不等号で条件指定 <i>LENGTH>100</i>
PUBLICATION	出版物の名前検索。(Pub())は使えなくなりました) <i>PUBLICATION("New York Times")</i>
SECTION	出版物の特定セクション検索 <i>SECTION(obituary)</i>
TICKER	ティッカーシンボル(日本の銘柄コード)による検索 <i>TICKER(IBM)</i>
STATE	米国の州について書かれたドキュメントを検索 <i>STATE("New York")</i>
SHOW	テレビ番組についてのドキュメントを検索 <i>SHOW(Dateline)</i>

SIC 米国のStandard Industry Classification (SIC)で規定されている産業コードや用語を含むドキュメントの検索
SIC("NONCLASSIFIABLE ESTABLISHMENT").

PUBLICATION-TYPE 特定の種類のニュースや記事
PUBLICATION-TYPE(obituary)

LexisNexis SmartIndexing Technology (レクシスネクシス・スマートインデックシング・テクノロジー)

LexisNexis SmartIndexing Technologyはニュース記事、ビジネス情報、法律文書を、それぞれの文中で取り上げているトピックに紐付けています。LexisNexis SmartIndexing Technologyはトピックに基づいて検索するため、ドキュメントの中で明示的にそのトピックが触れられていなくても、検索者はcompany、industry、subject、people、geographyについての情報を見つけることができるようになっています。

例えば、*MERGERS & ACQUISITIONS*のIndex Termを使って検索すると、記事の中で企業合併についてどんな表現が使われているかに関わらず、ピンポイントのレファレンスを入力することができます。同義語や類語による検索の必要はありません。

TERMS LexisNexis SmartIndexing TechnologyのTermを使って、人名、企業名、組織名、トピック名、産業名、土地/場所の名前を検索できます。New NexisのTermは、旧Nexisで紐づけられていたSubject、Organization、Person、Country、Industry、Geographyに関するTerm情報を更新しています。
TERMS(marioW/2 lemieux) AND TERMS(pittsburgh)

COMPANY SmartIndexing Technologyを使って会社名が取り上げられているドキュメントを探す
COMPANY(kodak)

他のお役立ち情報

Nexisアクセス: <https://signin.nexis.com>

LexisNexis ジャパン: <https://www.lexisnexis.jp>

LexisNexis SmartIndexing Technologyについて (英語)
<http://www.lexisnexis.com/smartindexing>

LexisNexis®カスタマーサポート
(月-金、9:30-18:00) TEL: 03-5561-3554
メール: support.jp@lexisnexis.com